

いつも、インシデント報告ありがとうございます

2023.10.31

京大病院医療安全情報137

【急変対応時の「重要確認事項」共有】

患者さんの急変時、担当医の医療者が対応するのではなく、その場に駆け付けた医療者が対応することがあるかと思います。

事例

入退院を繰り返してきた患者さんが入院された。入院時にご本人・ご家族に病状説明し、急変時の気管挿管・心臓マッサージなどの心肺蘇生処置を希望されないこと（DNAR）を確認していた。

入院中、呼吸状態が急激に悪化し、病棟のスタッフが救急部の応援を要請した。

主治医の先生が
出張で不在！？
誰に聞けば一番
わかるの？

蘇生しなくては・・・
次は挿管の準備だな

この患者さん、
DNARと
言われていた
ような気がする
けど・・・

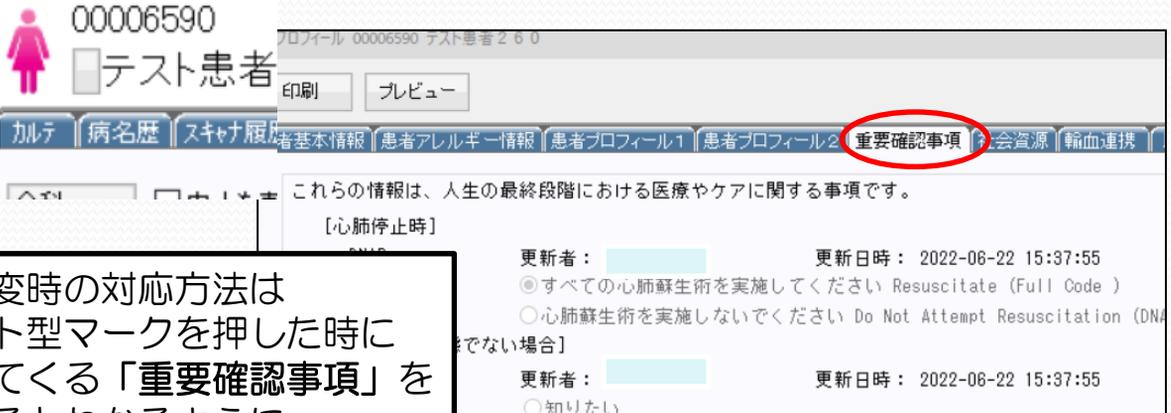


事例（つづき）

急変時の心肺蘇生を希望されないことは電子カルテの診療録に記載されていたが、急変時に対応した医療者たちはすぐに見つけることができなかった。

京大病院医療安全情報137

カルテの「重要確認事項」を使うと、診療科・職種を超えて情報共有がしやすくなります。ぜひご活用ください。



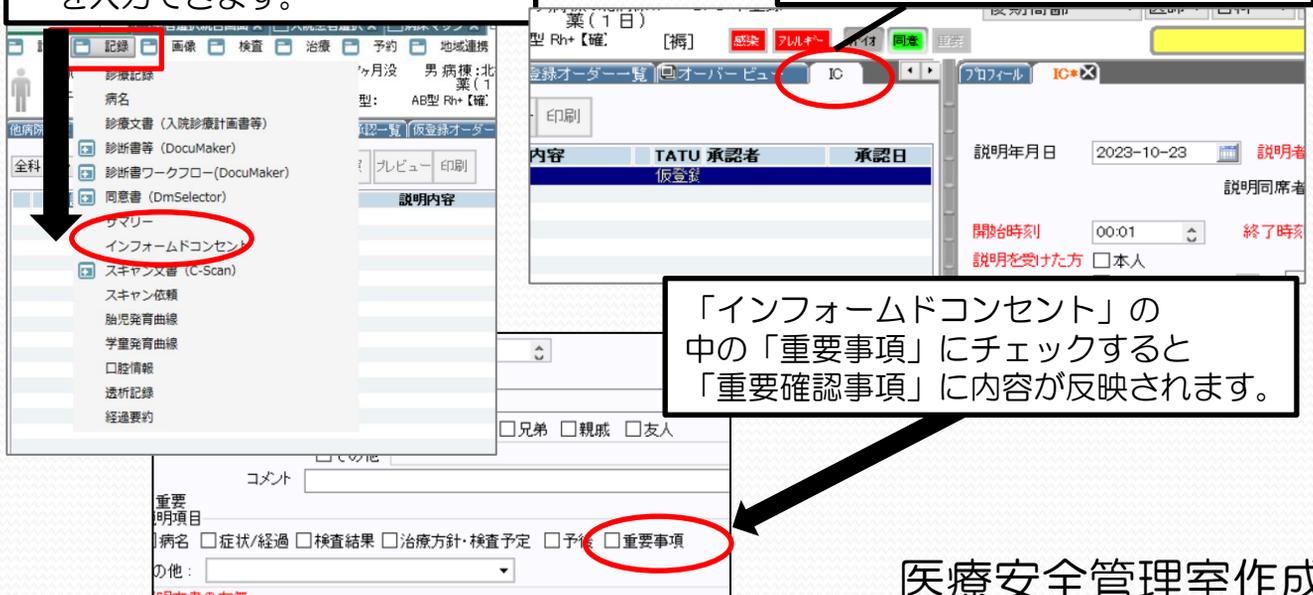
急変時の対応方法は
ヒト型マークを押した時に
出てくる「重要確認事項」を
見るとわかるように
なっています。

医師の方へ

病状も、患者さんやご家族の病状に対する受け止め方も刻一刻と変化するものです。「重要確認事項」に最新のインフォームドコンセントの内容を反映させるために「インフォームドコンセント」も合わせてご活用ください。

「記録」から開いていただくと
「インフォームドコンセント」
を入力できます。

「インフォームドコンセント」
を入力するとここに「ICタブ」が
現れます。



「インフォームドコンセント」の
中の「重要事項」にチェックすると
「重要確認事項」に内容が反映されます。